



TAIWA TOWN ASSEMBLY

これからの大和町議会の

あり方 プロジェクト

REPORT | 2021-2022
Vol.01

住民とともに歩む プロジェクトが始動

いま、全国的に議員のなり手不足が深刻化しています。

「これからの大和町議会のあり方プロジェクト」は、

わたしたちが住む町の将来を見据え、

議会や議員のあるべき姿などに視点を置き、

議員のなり手不足という課題を総合的に探ってきました。

黒川高校生や、宮城大学生のほか、

10代から70代まで幅広い世代の男女24人が

「これからの大和町議会のあり方ゼミナール」の研究者となり、

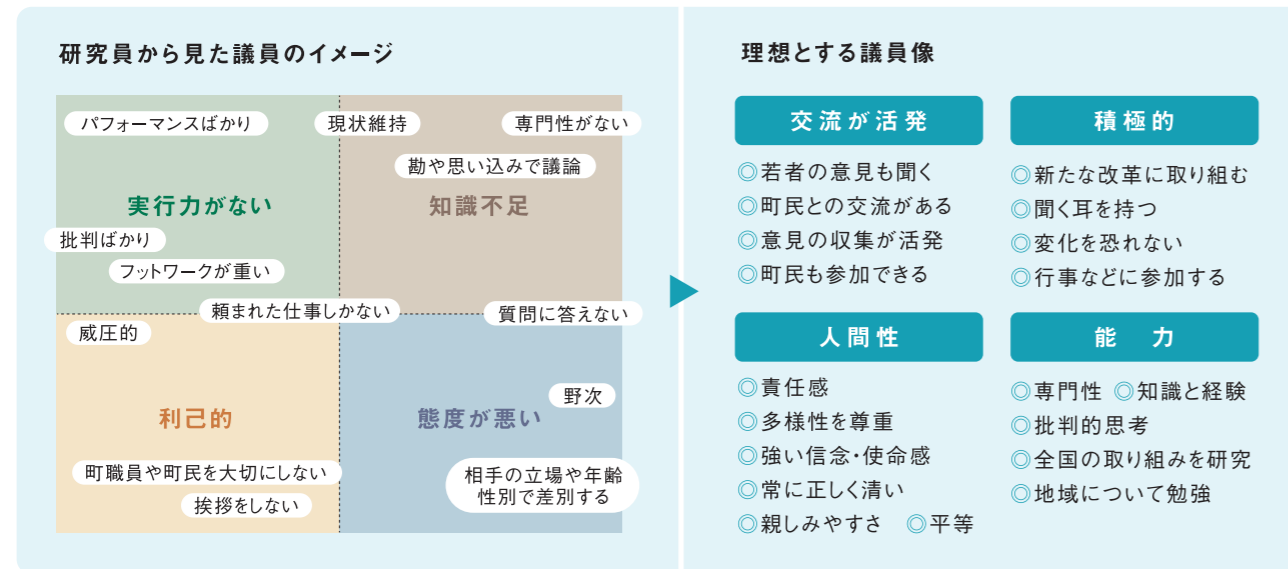
ときには議員と一緒に、セミナーやワークショップで

新しい議会や理想の議員像について語り合いました。

これからの議会ってなに？
理想の議員像は？

本音から探る、理想の議員像とは？

令和3年第1・2回のプロジェクトは、研究員が普段感じている議員のイメージと理想の議員像を本音で語り合いました。「こんな議会はイヤだ!」の問いかけに対するイメージは、偉そう、居眠りしてる、など、メディアで目にする偏った議員の姿でもありました。研究員が思い描く理想の議会や議員は、どんな姿でしょうか。



基調講演セミナー



議員の望ましくないイメージだけで、議会の評価を決めてしまっていないか。木を見て森を評価してはいけない。議員は有権者の写し鏡。議会を変えるだけでなく、有権者の意識も変えていくきっかけになればいい。民主主義には、多様な意見の反映と人の話を聞く寛容さが欠かせない。多様で寛容な議会が求められている。すでに皆さんは、理想像としてそこに気づいている。

かわむら かずのり
河村 和徳氏
東北大学大学院 情報科学研究科 人間社会情報科学専攻 准教授
全国都道府県議会議員会 都道府県議会デジタル化専門委員会座長、総務省 地方議会・議員のあり方に関する研究会などを歴任。地方自治・地方議会関連の研究をし、新聞、ラジオなどでも活躍されています。

STAGE.1 令和3年度のワークショップ日程と内容

開催時期	テーマ	活動内容
令和3年	11月20日(土)	【第1回】地方議会の状況とこれから議会の役割を知ろう 開会セレモニー◎基調講演セミナー 河村和徳氏(東北大学大学院 准教授)
	12月5日(日)	【第2回】あなたの思う議員像 ワークショップ「議員・議会に求めるものは?」
	12月18日(土)	【第3回】多くの人が地方議員をやって良いと思えるためには? ワークショップ「課題の抽出・分析」
令和4年	1月23日(日)	【第4回】あなたが町を変えられる? 出来ることを考えよう ワークショップ「立候補への課題を解決できるか」
	3月26日(土)	【第5回】私たちの議会 あり方ゼミナール 発表会

議員のなり手不足解消に向けての課題は？

近年の議会議員選挙では、なり手不足の傾向が目立ち、私たちの町・大和町でも深刻な状況です。そこで第3回のプロジェクトでは、議員になるための課題を掘り起こし、解決に向けて自由に話し合いを行いました。また、ワークショップでは自分が議員として立候補することを想定し、課題をまとめました。



家族、地域、会社の理解・協力は、すべてに共通する総合的な課題です。また、議員になる前となった後でもそれぞれ課題があると感じていることが分かりました。

その他にも自己研鑽が必要な項目や、支援者や議会内での人間関係などや、会社を辞めると議員報酬では家族を養えないといった現実的な課題も挙げられました。



研究員
議員

町長へ質問! ゼミナール議会で、まちの課題を問う

令和4年第4回のプロジェクトは、いままでワークショップで話し合ってきた町の課題を問うために、研究員が模擬議員となって、議場で町執行部へ一般質問をするという体験をしました。浅野町長や上野教育長へ鋭い質問をするなど、白熱した議会となりました。

◎日時:令和4年10月29日(土) ◎会場:大和町議会 議場



過疎化地域の活性化を

過疎化地域に工業団地・住宅団地を造成し、企業誘致や町民増加につながるまちづくりを。

造成には課題が多い。まずは移住・定住応援事業で転入者増を図る。

町長

企業誘致は雇用創出や経済活性化への有効策となる。人口増が期待できる。国や県に掛け合い、課題を突破するのが町長の仕事では。

働く場所の確保に努力する。職住近接のまちづくりを進めて行く。

町長



大和町吉田在住

あいざわ 相澤 さだ子さん

小学校の統廃合について

若い世代が充実した教育環境を求め町外へ移住する現状は過疎化につながる。小学校の統廃合の考えは。

地域ぐるみのきめ細やかな教育活動を行っている。統廃合の予定はない。

町長

小規模校から中学校へ進学し、不登校になる子どもがいる。町として対応は。

不登校の子ども一人ひとりに応じた支援や指導に取り組んでいる。

教育長

次の時代を担う子ども達に明るい未来が育まれることを願う。



大和町鶴巣在住

あらかし 荒木 淳子さん

大和町バスターミナル待合環境の改善

待合室に空調を設置、Wi-Fiや机も揃え、学生・社会人が待機時間を有効に利用しやすい環境を。

アンケートなどで利用者の声を聴き設置を研究していく。

町長

長時間待たないで済むバス路線の見直しや利用実態の把握は?

近隣町村の公共・民間バス、それぞれ本数に限りがあるなかで工夫し調整している。

町長

積極的に利用者を増やす姿勢を。交通弱者に優しいバスターミナルをつくるのが大切である。



宮城大学 学生

やまうち 山内 佑恵さん

町のキャッチフレーズは何か また目指すものは何か

町の将来像や魅力のPR手段としてキャッチフレーズは有効。第五次総合計画にある将来像を具体化する施策は。

にぎわい創出事業・吉岡小学校改築事業などがある。

町長

施策が吉岡中心に感じる。他地区での施策は。

農業・災害・教育環境など各地区の課題へも取り組んでいる。

町長

まちづくりへの参加意識を高めるために、キャッチフレーズの公募や、町民歌の制定、観光大使や地域おこし協力隊の活用なども有効である。



大和町鶴巣在住

さとう 佐藤 ゆり子さん

大和町の特徴のある地域連携型教育の実現にむけて

地域連携型の教育事業は、各学校や団体ごとに単発的に行われている印象がある。地域社会と連携した学校教育の具体策は。

学校間の連携は自然体験学習、親善陸上記録会、夢と希望と志を語る会など。企業とはプログラミング教育、職場体験など。地域団体からは、農業体験や郷土芸能の伝承などの支援がある。

教育長

各取り組みを個別的・属人的なもので終わらず、様々な立場の人たちが情報共有して、オール大和町で「子育て」に取り組む仕組みづくりが重要。

様々な連携事業を町民全体への周知に注力し進めていく。

教育長



宮城大学 教授

ひらおか よしひろ 平岡 善浩さん

図書館機能を持つ世代間交流ができる多目的施設に関して

遊び場やカフェなど町民の共有スペースや、アクセスのための町民バス増便も考えているか。

町民を交えたプロジェクトチームで考えている。町民バスは利用しやすい運行形態を検討する。

町長

狭い町中にバスルートをつくるなら歩道の確保・整備が必要では。

ワークショップで町民の意見を聞き進めたい。

町長

子どもからお年寄りまで利用できる多目的施設は、町の発展に欠かせない。私たち若者が、これからも住みやすいと思える政策を。



黒川高校 学生

たかはし こあ 高橋 心愛さん

決議文を議決

未来ある子どもたちに誇れる開かれた議会とまちづくりを求める決議

提出者 遠藤 弥一郎 若生 昇 蜂谷 澄江

結果 賛成:20 反対:0 全会一致で決議

決議文 議会や議員のあり方について学び、ワークショップでは年代や立場の違うもの同士で、多くの意見を出し合い、議員になるための課題について話し合ってきた。持続可能なまちづくりを続けていくためには、様々な住民の声を行政へ届ける議員と、大和町の未来を議論する議会が必要である。多様な人材が新たなまちづくりに参加しやすく、まちづくりのために多くの住民の声を傾ける開かれた議会をまちづくりを進めていただきたい。町及び町議会においては、住民に寄り添ったまちづくりを進め、その成果としてこれからの未来を担う子どもたちに、誇れる大和町となるようこれからも努められたい。(要約)



東北大学大学院 河村 和徳 氏 講評

執行部・議会・町民、それぞれに接点があってはじめてお互いの信頼は高まる。議会を肌で体験する人を増やし、その経験をコミュニティへ伝播させることで執行部や議会の信頼を高めて行く。これからの課題は、この経験をより多くの人に共有してもらい、同時に議会改革へと繋げていくことだ。改革にゴールはなく、時代にあわせ絶えず見直しをしなければならない。今日は、まさに改革のスタートとなった。

「これからの大和町議会のあり方プロジェクト」STAGE.2を終えて

参加者
アンケート

「これからの大和町議会のあり方ゼミナール」に参加された研究員のアンケートには、ワークショップでは語れなかった思いが込められていました。参加いただきありがとうございました。

WEBや議会だよりから受ける印象よりも本会議場の雰囲気は張り詰めたものがあり、緊張した。

また、議場で討論するのは、生半可な知識では難しく議員力が問われる場面なので大変だと感じた。 60代／男性

大和町が持つ特色と愛のある町民がいるということを誇りに、よりよいまちづくりを進めていって頂きたいと思う。 20代／女性

議員、議会がメディアで取り上げられる場合、決まって不祥事などである。大和町議会のように頑張っている議会もあるのだからそういった良い面を報道して欲しいと思った。報われてほしい。 20代／男性

今回の意見を元に今後どうすればと考えると、開かれた議会をもっと実行することが大事かと思いました。

議会を見てほしいと言われても、平日は仕事をしているため、本当に関心があれば見ないと思う。 40代／男性

町村議会に若い議員が出てこないのは当然だと思う。なぜなら自分の生活基盤がしっかりしていなければ議員はやっていけないからと思うからである。

任期もあり、そう多くない報酬だけで議員として生活しているのは大変だろうと考える。

自然と勤め人以外の自営の人達が議員となる。

70代／女性



「これからの大和町議会のあり方ゼミナール」に参加して



研究員
あらかき じゅんこ
荒木 淳子さん

議員は、選挙のためにお金もかかる。人間性や信頼にも関わる。若い人が議員となるときに、生活力として議員報酬だけでは厳しいとつくづく感じました。

また、議員と話をしてみても、一町民として知らない議会を感じることができました。以前は批判することもありましたが、そう見てはいけないと思いました。参加させていただきありがとうございました。



宮城大学 事業構想学群
価値創造デザイン学類
教授
ひらおか よしひろ
平岡 善浩さん

私は今回ワークショップの企画運営と参加者の両面の立場から参画し、様々な立場の方々と共に議論した気づきの広がりや学びの深さは、私自身にとって貴重な経験となりました。住民の代表である「首長」と「議員」を「住民」が直接選ぶ『二元代表制』は、結局、町民が主体となって町の将来を決めて推進するための仕組みであり、今回のプロジェクトを契機に町政を自分事として捉え関心関与を持つ方が増えることを期待しています。

「これからの大和町議会のあり方プロジェクト」

未来への展望

プロジェクトは、まだスタート地点から歩みはじめたばかりです。ワークショップで導き出した理想の議会と議員像は、住民が希望する姿であると考えます。大和町議会はこれからも、開かれた議会、多様な意見が議論される寛容な議会を目指し、住民と共に議論して参ります。